

真冬に冷水被る

子供たちが幼稚園の頃だ。男の子二人だけだが、時々悪ふざけする。男の子があんまりおとなしいと、かえって心配だが、元気がよすぎて困る事もある。

布団の上、ベッドの上、所かまわずドタンバタン、相撲だけが喧嘩だかが始まる。歳は二つ違いたが、一男の方が発育よいのか、同じ位の体格だ。

六畳と八畳の間の襖は体を打ち付け、潜れる位の穴が開いている。何回張替えしたか知れない。当っても破れない襖に取り替えた。両面ベニヤ板張りでその上に襖紙を張った丈夫な物に取り替えた。襖一枚二二〇〇円位、あの当時としては高価だ。四枚だから出費は大きい。

今度は襖が破れないが、大きな音がする。ある日余り騒ぎが大きいので妻が注意し、又別な悪さをしたので持て余し、妻が私に「お父さん二人を叱って下さい」と注心に及んだ。

私は子供達を座らせ。

「お前達が親の言う事を聞かないのは、お父さんの躰けが悪かったからだ。お父さんが、お父さんを苛めるから、其処で見ている」と言い、パンツ一枚の裸になった。

台所からバケツ一杯水をくんで、玄関戸を開き外に出た、冬の寒い夜であった。子供の目の前で頭から、ザンブリ水を被った。妻も見っていた。子供達は泣いて「これから言う事聞くから」と畳に頭を付け謝って呉れた。

私がどうしてあんな事をしたのか、今でも自分が分からない。子供達は素直で、無邪気、明るく誰が見てもよい子だったのに、

今になって、やり過ぎた想いがする。

カプスカウト、ボーイスカウト、音楽教室、そろばん教室、他仲良く二人で通っていた、仲のよい兄弟である。

今でも二人の付き合いは子供の頃と変わらない。私がこの歳になって、二人にパソコンを買って貰い、勧められ、習い始めた。プリンター、スキャナ、デジカメまで揃えてくれた。モニターも年寄りだからと、画面が子供達のより大きいのを用意して呉れた。間もなく八〇の手習いになる、頭のほうも若い時のようにはいかない。教えられても直ぐ忘れるのだが、兄弟交互に先生になって呉れる。ここ一年余りに随分覚えたが、分からない事や、忘れた事が出ると。携帯メールを送る。

夜、勤め帰りに寄って教えてくれる。

子供達が誰かに言った話が聞こえて来た。

「親父に何か趣味を持たせないと、早くボケる、パソコンなら少し頭を使うから良いだろう」と。

洋室の八畳間を作り、机三脚にパソコン類を設置し、時々横になれるよう、ベッドも置いた。寝ていて見られるテレビ、整理タンス、本箱、エアコンも取り付け、飾り棚もある、纏まった私のプライベートルームである。

子供達は交互に来るが二人一緒の時もある。孫たちも時々来る、来ると真つ先に二階パソコンルームに来て、話が弾む。

歳をとると子供達、孫達の顔を見るのが楽しみだ、共通の趣味をもつ私は幸せ者である。